

報告事項 2 令和2年度事業計画報告の件

令和2年度事業計画書

2020年度活動テーマ 『Willpower』（ウイルパワー）

～意志あるところに道はひらける～

はじめに

昨年5月1日に誕生した「令和」の新元号にも馴染みが深まり、本年は令和2事業年度目となります。1964年以来、2度目となる東京オリンピック、パラリンピックが予定されています。時代の変わり目とともに、新しい息吹が期待される真ただ中の事業年度を迎えたと言える年です。

しかし、1月下旬に中国武漢で「新型コロナウイルス」が発症し、日本でも大型客船の乗客から国内感染者がはじまり患者数が増加をたどっております。そして世界規模に拡散した感染力は終息の兆しをまったく見せず、人々は過去に経験のない対応が求められ、オリンピック、パラリンピックもさることながら、経済活動にも大きく影を落とし始めました。

J A I F Aの創設は1962年9月、先の東京オリンピックの2年前のことです。その後の日本経済の発展は目覚ましいものがありました。しかし58年後の今日までには、良いことばかりではなく、バブル崩壊、デフレ、リーマンショック、大地震や突発的災害など景気を揺るがす要因も多く、2020年にしても、既にコロナウイルスという問題を抱えた年になってしまいました。

いまこのときに、私たち生命保険営業職員は、J A I F Aの会員である誇りを見つめなおし、公益社団法人という組織での事業活動を通じて大きく進化発展するチャンスにしたいと考えます。そこで、本事業年度テーマを「Willpower～意志あるところに道はひらける～」として事業を展開して参ります。

いつの世も生命保険は、広く万人のためにあり、景気や時代に左右されるものではありません。お客様により良い生命保険をお届けするために、会員は研鑽に励み、目標と強い志を持ち仕事に励んでいます。強い意志があるところにかかわらず道は開けます。強い意志がなければ道はできません。不断の努力を続けて欲しいと思います。努力は人を裏切りません。自身を輝かせるためにも、何事も成し遂げようとする「Willpower（意志）」を強く持って発揮していこうではありませんか。

第16代アメリカ合衆国大統領に就任[1861年3月4日]したエイブラハム・リンカーンの有名な言葉に、『意志あるところに道はひらける(Where there's a will, there's a way.)』という一節があります。「どんなに困難な道でもそれをやり遂げる意志さえあれば必ず道は開ける」という希望と勇気に満ちた言葉です。一步踏み出すことをためらった時、困難に直面したときなど、ぜひとも思い出したい言葉であります。

J A I F Aは、会員4万名の組織力を活かしてきたこの力が「公益社団」の組織を形成しています。会員個々が自分の枠を超えて新しい力を発揮されることで、生命保険の仕事に対する資質がさらに向上し、J A I F Aの中で邁進する姿に、本年度は、各人の強い意志を加えプライドを持って活動していこうではありませんか。

基本方針

1. 「公益社団法人」9事業年度目の発展

本部、9ブロック、54地方協会ともに公益法人としての高い意識を持ち続ける中で、9事業年度目を迎えた。会員一人ひとりが一層の公益事業の発展と期待への高まりに応えられるよう、これまでも増して志し高く活動していく。

2. IT化の促進と学習帖の活用を通じた研鑽による公益事業への連携

日常的にスマートフォンやタブレット端末が活用される昨今、今期は、委員会体制を見直し、ITを活用することを各委員会事業の中に取り入れて促進していく。このような中、学習帖の活用は、会員がサイトを活用して自己研鑽することでお客さまによりの確な生命保険をお届けし、また、生きがいや生活設計支援の教育啓発をすることにある。学習帖を通じ見識を深めるとともに、生命保険事業の社会的理解を高め、公益に資することのできるよう展開させていく。

3. 永続的社会貢献活動3本柱への会員の思い

永続的社会貢献活動とする「愛のドリーム募金」「ハートフルファンデーション」「他のボランティア団体が実施する行事等への参加型の社会貢献活動」の3つの公益事業への取り組みが確立されている。各柱の特徴、役割、目的の中で、地方協会では地域の特色を活かし、相互扶助・助け合いの心をもった絆をより一層強く結び合うように本年も事業展開していきたい。そしてまた、JAIFA全体としても、会員一人ひとりの思いが活かされるように推進していく。

4. 「ハートフルファンデーション」の初動体制の強化

思いもかけず近年は全国各地で局所・突発的に大災害が発生している。会員一人ひとりからの基金が存在することで大災害発生の際に、迅速で細やかな独自の支援活動を行うことの体制は確立したものの、災害被災地の現状を把握する上では課題も多い。発生してほしくない災害ではあるが「いま私たちにできること」の思いを胸に、万一の緊急支援への要請に対する声には、現地との密接な連携のもとに、さらに迅速に応えるファンデーションとなるよう初動からの支援体制を強化していく。

5. 一般消費者や会員のお客様（生命保険業界関係の方々を除く）の行事参加

生命保険が自分や家族の生活を守る大切な役割を担っていることを理解していただけるよう、一般消費者の方々に広く参加をしていただくための「講演会」「研修会」「セミナー」などの実施は欠かせない公益事業目的である。地方協会54協会という全国的な組織力を活かし、行事等へより多くの参加者を増やしつつ、生命保険商品をはじめとする金融商品の正しい知識や活用を一般社会に普及させるとともに、併せて社会貢献活動にも資するJAIFAの活動にも理解ご支援をいただけるように取組んでいく。

6. 会員増強と組織の強化

公益事業推進と価値を高め、その事業活動が全国津々浦々へ繋がるのが、すべての事業の取り組みの拡充にも大切なことである。そのため、会員の増加は、全国どの地域にとっても不可欠な取り組みである。よって、組織強化の施策として会員間の情報交換の仕組みを強化することや、本部と会社代表とのコミュニケーションを密にしながら会社ごとの現状を判断しつつ、組織を一層拡充させるとともに、本社控除による会費徴収のシステム化、口座振替による会費納入化など会員の利便化を図り、会員増強にも全力を傾注していく。